

「胆大心小」を肝に銘じ

一日も早い復興を目指して

市民の皆さんに、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、復興まちづくり基本計画の中期3年がスタートした「本格復興」の年として、被災された皆さんの住まい、暮らしの再建などの方向性を定められるよう取り組んできました。

住まいについては、市内に1342戸の復興公営住宅を整備予定で、これら全ての復興公営住宅の入居申し込みを終了し、建設用地も確保しました。昨年までに6カ所・237戸が完成しましたが、今年は2月に「上中島地区Ⅱ期」156戸が完成します。今後は、再建の意向が定まっていない方々の確認を行い、復興公営住宅の整備戸数と入居者を調整し、早期入居を目指します。



また、被災地区の土地整備に関しては、土地区画整理事業を実施する市内全4地区（片岸／鶴住居／嬉石・松原／平田）の仮換地が7月に終了したほか、ほとんどの被災地区で施工業者も決定し、造成業務などを発注しました。今年から、造成が完了した地区ごとに宅地の引渡しを行うこととしており、一日も早く皆さんに引渡しができるよう全力で取り組みます。

産業に関しては、被災した釜石港のコンテナ取扱量は毎年増加を続けており、企業誘致については、水産加工関連の物流センターの操業や太陽光パネル製造販売会社の立地協定締結など、進出が相次ぎました。

そして、観光や生活路線として重要な三陸鉄道も全線運行を再開し、再開が待望されるJR山田線については、三陸鉄道移管への見通しが立ちつつある状況にあります。さらに、JR釜石線では、大正ロマンにあふれたSL銀河が運行され、多くの乗降客・見物者で沸き返りました。

商業とにぎわいの拠点となる中心市街地東部地区には、大型商業施設に続き、一帯に駐車場や共同店舗「タウンポート大町」がオープンしました。3月には市民広場が完成するほか、年内に「釜石市民ホール」「釜石市情報交流センター」（いずれも仮称）が相次いで着工予定であり、震災後の新しい市街地の顔が形成されつつあります。

一方、市内では約900の事業所が被災し、いまだ多くが仮設施設での営業を余儀なくされるなど、その再建は大きな課題となっています。＼なりわいの再建＼なくして「復興」なしの認識のもと、今まで以上に被災事業者に寄り添いながら再建を後押ししていきます。

将来の希望を創る取り組みとして、多様な再生可能エネルギーの安定供給を目指す「スマートコミュニティ」、地域包括ケアを推進する「産業福祉都市」、鉄・ラグビーなど釜石特有の歴史・文化を磨き上げる「ワールドミュージアム構想」を掲げています。とりわけ、ラグビーは、日本で開かれる「ラグビーワールドカップ2019」の開催都市の決定が3月、鉄に関しては、橋野鉄鉱山を構成資産を含む「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界遺産登録が6月ころ、それぞれ決定の見込みです。

今年は復興まちづくり基本計画10年間の中間年に当たります。被災された皆さんは、いまだに仮設住宅やみなし仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされています。1人ぐらしの高齢者および高齢者のみの世帯では、ご自身、ご家族の健康や将来に不安、悩みを抱えながら生活されています。また、住宅再建の意向を定められないまま悩まれている方も多く見られます。こうした方々が希望を持ち、いきいきとこの地で暮らし続けられるよう一人一人に寄り添いながら、一日も早い生活の再建を支援していきます。

従来からの課題である人口減少への対応として、釜援隊をはじめ若者や市外からの人材を積極的に受け入れ、大いにまちづくりに活躍・貢献してもらえような「オープンシティ・釜石」をさらに進め、魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。

本年が市民の皆さんにとってよい年でありますよう祈念申し上げますと共に、いっそうのご支援とご協力をお願い申し上げます。

釜石市長 野田武則



世界遺産登録を目指す橋野鉄鉱山



ラグビーワールドカップ2019誘致へ



昨年12月にオープンしたタウンポート大町



建設が進む上中島町復興公営住宅Ⅱ期